

「視点を変えてみる」

山口県 安國寺 副住職 本多隆晃
あんこくじ ほんだりゆうこう

ある日、私はお寺の斜面にあるツツジの剪定をしていました。手の届かない位置のツツジでしたので、一メートル位の大きな石に足を置き、身を乗り出して剪定をしようとした時、その石が崩れ、私は2メートルほどの斜面を落ちてしまいました。運の悪いことに、ただ落ちただけでなく、踏み台にしていた大きな石が足の上に落ちてきたのです。あまりにひどい痛みで、動く事も助けを求める事もできませんでした。

幸いな事に連れ合いが近くにいたので、すぐに駆け寄り救急車を呼んでくれました。私は大腿骨の骨折で手術をし、一カ月間足を動かすことができず、その後リハビリをしました。以前、お檀家さんからリハビリの話を聞いた時「大変ですね」と、分かった風な事を言ったのを思い出し、とても後悔しました。思うように動かせない辛さ、このまま正座や坐禅ができなくなるのではないかという焦り、本当に元の生活ができるのかという不安、体験したものにしかわからない苦勞がそこにはありました。

連れ合いは、私の車いすを使って「不自由さ」を体験し「大変すぎるね!」と言ってくれました。しかしリハビリの成果がでず、苛立ちを感じていた私は、毎日見舞いに来てくれる連れ合いに自分勝手な要求や八つ当たりをしてしまうことがありました。その後、退院し母に聞いたのですが、連れ合いは他県から山口県に嫁いで来たばかりで、土地勘がなく、車の運転にも慣れていなかったもので、毎日怖い思いをしながら見舞いに来てくれたようです。常に私の立場になり話をしてくれた連れ合い、私は自分の事ばかり 考え、相手のことを何も考えていなかったことを悔やみました。そして同時に、連れあいへの感謝の気持ちがこみ上げてきました。私たちは、日ごろ相手の立場になって発言することが少ないように思います。この入院を通して「相手と同じ立場に立つことが、相手の気持ちを理解する上で一番大切な事」だということに気づきました。骨折やリハビリは辛い経験でしたが、そのことに気付けたことは本当に良かったと思いました。